

地学クラブ 200 回記念祝賀会記事

記念講演会に引き続き、午後 5 時半から地学会館に近いグリーンパレスの「さくらの間」で 34 名の参加を得て祝賀会が開かれた。肥田 昇会長は開会の挨拶で、地学協会が開催した講演会について明治時代の地学倶楽部までさかのぼって触れられ、1961 年からの地学クラブの生い立ちとこのインフォーマルな講演会の意義を強調された。次に佐藤 久前会長は、乾杯の発声の中で南米における研究成果を当時のコダクロームのスライドを用いて初めてこのクラブで報告された時を回顧され、格式ばらずに気楽にプレゼンテーション出来る良さを述べられた。

また今回の祝賀会では、非常に珍しいアンサンブルによる室内楽演奏があった。隅田 実会員のチェロと彌吉 久と大串 融両会員の尺八で、宮城道雄作曲「春の海」と山田耕筰作曲「赤とんぼ」が演奏された。大変な熱演で拍手しばし鳴り止まなかった。

次に参加者の中での最長老、蔵田延男会員が挨拶に立たれ、如何に地学協会が同会員の研究生活に大きな存在であったか、を述べられ多くに参加者に感銘を与えた。

歓談は続き、果てる事なかったが、7 時半近くに閉会した。

なおこの祝賀会は、岡原義旦事務局長のご尽力によって開催出来た、ここに記して感謝の意を表する。

(嶋崎吉彦)

